「外来リス問題」をご存知ですか？

帯広畜産大学野生動物管理学研究室　押田　龍夫　・　柳川　久

外来種とは英語でエイリアン・スピーシーズ（alien species）と言います。人間によって、本来生息していない場所に導入された生き物の総称です。北海道では近年ペットとして輸入されたアライグマが野生化し大きな社会問題となっていますが、リスの仲間でもこの問題はジワジワと進行しているのです。

北海道には3種のリスの仲間、エゾシマリス、エゾモモンガ、エゾリスが住んでいます。いずれもユーラシア大陸中～北部一帯に広く分布する種の亜種ですが、DNAを調べるとユーラシアのものとは異なっていることが分かってきました（図1、図2）。もし、ユーラシアのリス達が北海道に輸入されそのまま野生化しますとこれら北海道特有のリス達との交雑が進行し、北海道のリス達の純系が失われてしまうかもしれません。また、外来種は本来の生態系の姿を大きく変えてしまったり、さらには病原体を伝播したりする危険性を持っています。

北海道の外来リスの調査はまだまだこれからです。

もし、外国産のリスをペットとして飼育されている方がおられましたら、最後にお願いです。どうぞ野外には放さないで下さい。北海道固有の自然を守るために御理解頂けますことを願っております。

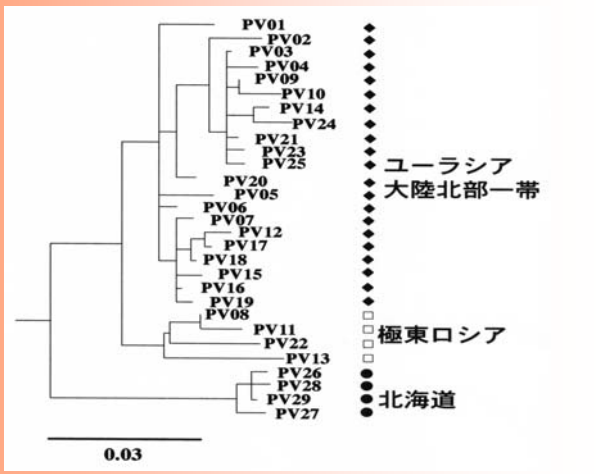

図1：DNAの解析結果から示されたユーラシア大陸産タイリクモモンガと北海道産エゾモモンガの系統関係。PV01～PV29は各々個体番号を表します。

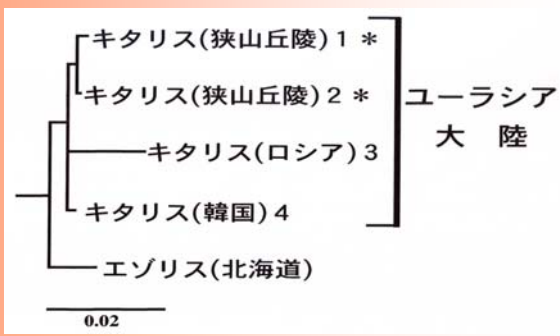

図2：DNAの解析結果から示されたユーラシア大陸産キタリスと北海道産エゾリスの系統関係。＊を付けた個体は東京都と埼玉県にまたがる狭山丘陵で見つかった外来キタリスです。数字は各々の個体番号です。

図3：エゾシマリス

チョウセンシマリス VS エゾシマリス

以前、韓国から日本へ沢山のシマリスがペットとして輸入されました。北海道では、多数のチョウセンシマリスが人為的に放されたこともあり、純粋なエゾシマリスとチョウセンシマリスとの混血が懸念されています。

図4：エゾモモンガ

タイリクモモンガ VS エゾモモンガ

中国から日本へタイリクモモンガが輸入されたこともあります。これらが意図的に放されたという事例は確認されていませんが、もし野生化していた場合、エゾモモンガとの混血が懸念されます。

図5：エゾリス

キタリス VS エゾリス

キタリスは、場所は特定出来ていませんがユーラシア大陸から日本へ輸入されたことがあります。本州ではこれらが野生化しており、今後、日本の固有種であるニホンリスとの競争が問題になるかもしれません。北海道で野生化した場合、やはりエゾリスとの混血が問題となるでしょう。